

素材の強みと独創技術をいかした研究開発体制

■ 研究開発体制の基本方針

当社の研究開発のポイントは、原料の特性をうまく引き出し、付加価値を高める独創技術にあります。

天然物由来の原料であるテルペンには、環境に優しくリサイクルしやすいといった基本機能がありますが、この基本機能を活かしながらお客様の要求にあわせ、または社会的なニーズにあわせて、研究者の創意と工夫を重ねることで全く新しい価値をもつ製品へと昇華さ

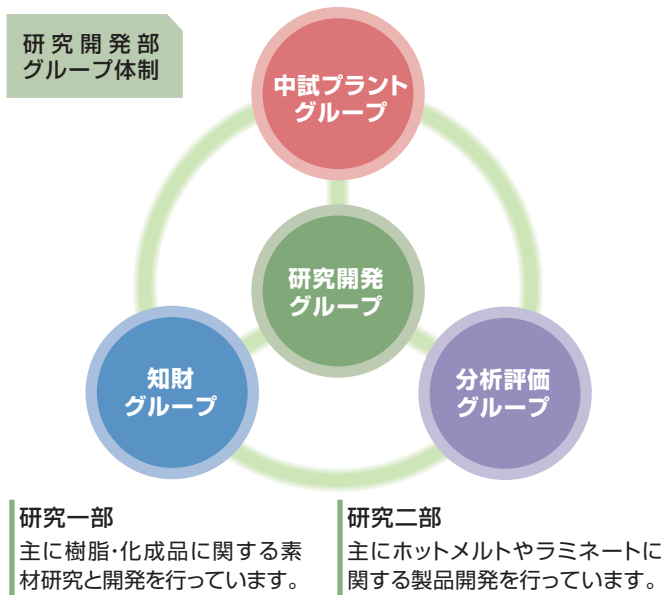
せています。

現在は、「電子・光材料分野」「ライフサイエンス分野」「環境関連分野」という成長性の期待できる分野を重点分野として位置づけ、それぞれの分野の先端情報を注視しながら、次の時代に基幹となりうる製品への応用をめざして研究開発しています。

■ 研究開発部門の業務体制

研究開発部門は、主に樹脂や化成品などの素材研究を行う「研究一部」と、主にラミネートやホットメルトなど製品の研究開発を行う「研究二部」で構成されています。それぞれの部では、新製品の開発を行うと同時に、既存製品の改良を行うことでの付加価値向上や、既存製品による新規顧客開発や新市場開拓、大学等の専門研究機関との連携を主な業務としています。

そして研究開発を円滑に推進するために、チーム体制を確立。研究開発グループを中心に、中間試験プラントグループ、分析評価グループ、知財グループが綿密に連携しあい、それぞれの専門性をいかしながら業務を遂行しています。



入社一年目の研究スタッフ

VOICE



市川 美里 (写真 左)

天然物由来の原料から有用な物質を生みだし製品化していることが、ヤスハラケミカルの研究開発部門の特長です。将来は、自分で開発した製品の「技術営業」にもチャレンジしたいと思っています。

山本 万貴江 (写真 右)

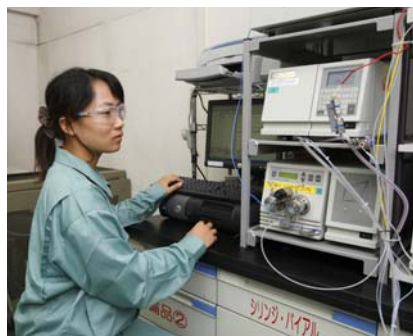
会社訪問の時、研究開発の部屋や方針まで詳しく案内していただき、そのあたたかな社風に魅力を感じ入社を決めました。大学での研究内容とは分野が違うから最初はとまどうこともあるけど、自分の視野や意識を広げて積極的に知識や経験を吸収しています。

■ 研究開発プロセス

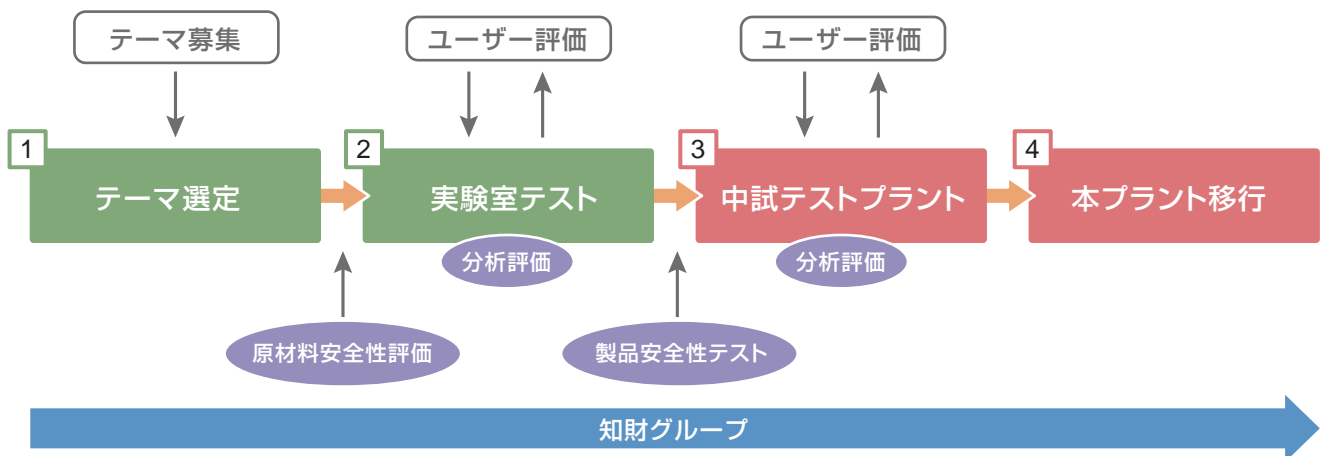
図は、当社における研究開発の基本的な流れを図式化したものです。研究開発においても「環境に優しく人に優しい」ことを最優先し、危険性の高い薬品やプロセスは使いません。

素材研究は実験や分析を繰り返し、検証や評価の積み重ねが必要で、5年から10年といった長期間にわたる

開発も珍しくありません。そのため開発スタッフには、専門技術だけでなく周辺技術の知識取得のほか、向上心や精神面での強さも望んでいます。そしてチームワーク体制を整えることで、協力しながらブレイクスルーできるようサポートしています。



新製品の研究開発プロセス図



1 テーマ選定

研究部門をはじめ営業部門や製造部門などから開発テーマを募集し、テーマ会議で次の製品開発にふさわしいテーマを選定します。

2 実験室テスト

原材料の安全性を評価。実験室で、分析評価グループと連携しながら、ビーカーレベルのテストを積み重ねます。同時進行的に知財グループが権利・特許関係の調査を行います。

3 中試テストプラント

ビーカーレベルから、100ℓ / 500ℓレベルへスケールアップし、品質と安全性の向上をはかります。この工程でも分析評価グループや知財グループが、製品化へのサポートを行います。

4 本プラント移行

品質と安全性を安定させて製造できるようプラント設計を行い、本プラントへ移行します。同時に営業戦略的判断を加えながら、知的財産権を整えます。